



木づくり推進月間

林野庁は、木材とりわけ国産材を広く利用して「こうとう」という「木づくり運動」を展開しています。「木づくり」とは暮らしの中に国産材の製品を取り入れて、日本の森林を育てるエゴ活動。今回の特集ではその「木づくり運動」に積極的に取り組んでいる団体や企業などを紹介します。また、10月を「木づくり推進月間」に設定し、イベントなど様々な取組を行います。各地で開催される「木づくり」に関するイベントも林野庁のホームページで紹介していますので是非ご参加ください。

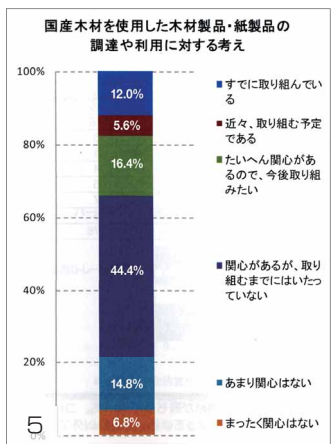
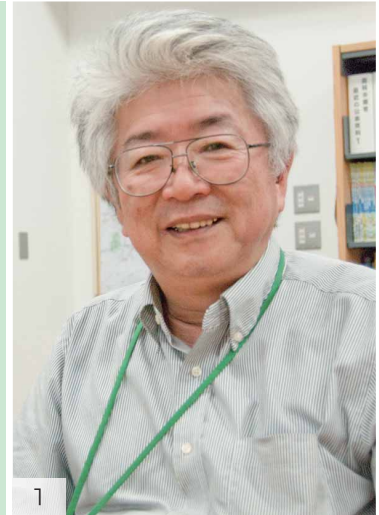


木づかい運動を広く広げるために
 NPO法人活木活木(いきいき)森ネットワークは、「木づかい運動」の事務局として国産材の利用を拡大するためのイベントやウェブ上での広報をはじめ、さまざまな取組を行っています。特に、木づかい推進月間でもある10月には「木づかいWeek 2011」と題して10月17日～22日の開催期間中に木づかいシンポジウムや木づかいビジネスセミナー、木づかい見本市を行います。

木づかいWeek 2011
 10月18日、東京大学弥生講堂にて行われる木づかいシンポジウムでは、木づかい運動感謝状の贈呈式が行われます。これは公共建築物等に国産材の利用を積極的に進める事業者や国産材製品の利用拡大や木づかい運動の意義等のPRを積極的に行っている普及啓発者に対して、感謝の意を表するものです。今回は国産材大規模供給・利用部門2点、国産材利用推進部門6点、木づかい運動推進部門10点、合計18点の中から、農林水産

「木づかい運動」
NPO 法人
 いきいき
活木活木森ネットワーク
 ホームページ：www.iki-mori.net
www.kidukai.com
www.mokuiku.jp

1. お話をしてくださった活木活木森ネットワークの武田八郎さん
2. 農林水産省「消費者の部屋」での展示の様子
3. 「消費者の部屋」で展示された国産材製品
4. 平成23年度木づかいポスター
5. 「国産材を使用した木材製品・紙製品の調達や利用に関する考え」のアンケート結果



木づかいへの意識向上へ
 法人活木活木森ネットワークが昨年12月に1,000企業を対象に木づかいに対する調査を行ったところ、国産材を使用した製品への取組に対し、「すでに取組んでいる」などといったポジティブな企業は全体の34.0%を占めていました。一方、「何らかの形で木づかい運動を知っていた企業」は全体の27.7%にとどまりましたが、活木活木森ネットワークでは、木づかい運動ロゴマークの使用登録などを通じ、今後も「木づかい運動」を広げていきたいと考えています。

大臣感謝状等が9頁の一覧の通り、選ばれました。
 また、9月28日～10月3日には、農林水産省内「消費者の部屋」において木づかいで環境貢献に参加しようという主旨のもと、「身近な国産材製品と木育の紹介」の特別展示を行いました。国産材を使ったさまざまな製品が展示され、4日間の来場者総数は779人にのほりました。

「木育を通じた被災地支援」

東京おもちゃ美術館

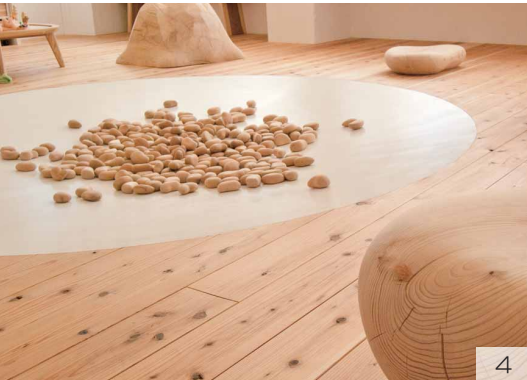
ホームページ：
<http://goodtoy.org/ttm/>

おもちゃの可能性を伝える

東京都四谷にある東京おもちゃ美術館は、さまざまなおもちゃで実際に遊べる体験型のミュージアムで、手作りおもちゃ工房や木育ワークショップの開催のほか、おもちゃ学芸員などの人材の育成も行っています。

被災地にGood Toy Japanを届ける

3月の東日本大震災発生後、おもちゃ美術館では被災地におもちゃとあそびを届ける「あそび支援隊」の活動を始めました。おもちゃメーカーやおもちゃ作家などに協力を呼びかけた結果、国内のみならず、海外からもたくさんのおもちゃが美術館に届けられました。それらのおもちゃを持って、まず4月7日〜10日に以前からネットワークのあった岩手



4



3



2

1. お話をしてくださった東京おもちゃ美術館の馬場清さん
2. 4月末に「あそび支援隊」が訪れた陸前高田市の米崎保育園
3. 赤いエプロンが目印のおもちゃ学芸員
4. 全国のスギをふんだんに使った赤ちゃん向けサロン「赤ちゃん木育ひろば」



1

県陸前高田市と宮城県気仙沼市それぞれ2か所ずつの避難所に「あそび支援隊」を派遣しました。この支援隊は、単におもちゃを寄贈するだけでなく、おもちゃの専門家であるおもちゃコンサルタントを通じて、遊び方を伝えることにも力を入れました。現地では、積み木とぬいぐるみというシンプルなおもちゃに人気が集まりました。特に積み木は、木のぬくもりや感触、ふれあう音といった木の良さ以外に遊びの応用範囲の広さや多世代で遊べるなどのメリットがあり、積み木の良さを再認識させられました。このことがきっかけで、6月には、積み木セットを130箱つくり、最終的には、7月の第5次隊まで支援を行いました。

今後は、避難所から仮設住宅へ生活の場が移っているので、そこでのコミュニケーションが大切です。また11月5日・6日に行われる木工製品の見本市「森のめぐみの子ども博」では、全国の木工作家や職人による国産材を使ったおもちゃや食器などの展示や、若手作家によるワークショップが開催されます。確実に広がりを見せる国産材利用の動きとともに、さらに木のよさを知ってもらえればと願っています。

木のよさを知ってGood Toy Japanを

10月にリニューアルオープンした美術館の「赤ちゃん木育ひろば」は、造形作家の有馬晋平ありましんぺいさんの作品スギコダマをテーマに赤ちゃんが安心できる場として、また親同士の交流の場として活用されています。

ティーづくりのツールとしておもちゃを活用できるような支援方法を考えています。

受賞者の声

木づかい運動推進部門
 株式会社 木遊舎
 愛媛県産のヒノキを使用した「天使のhoppo」シリーズ キリンの輪投げ



弊社では、小規模ながら長年に渡り、これまで小物玩具には不向きといわれた地場産スギ・ヒノキ材を使用し、地元に着目した地方産全国へのおもちゃづくりに取り組み、国産材の利用促進を進めて参りました。このような地道な取り組みに目を向けて頂き、評価していただいたことをスタッフ一同感謝いたしております。

「国産材(間伐材)活用プロジェクト」 ハートツリー株式会社 【林野庁長官感謝状】

ホームページ：
<http://heart-tree.com>

木材利用はビジネスチャンス

東京都虎ノ門にオフィスを置くハートツリー株式会社は、スポーツ選手やミュージシャンのマネージメントを行うほか、国産割り箸プロジェクト「アド箸」など、主に吉野材を使ったマーケティング企画で林業界に新たな風を送り込んでいます。

以前から様々な企業の商品開発やマーケティングでノウハウを培ってきた代表の服部さんは、すばらしい木の文化を持つ日本の林業が注目されていないことに気づき、敢えて業界への参入を決意。国産材を使うことはコスト面での壁が厚く、なかなか企業参入が進んでいない状態でしたが、国産材利用がコスト以上にメリットがあることを伝えら



4

3

2

1. お話をしてくださったハートツリー株式会社代表の服部進さん
2. PaPaCo YOSHINOの折り紙「まのかみ」
3. 吉野材の間伐材が使われている「森パール」の内装
4. 9月に発売された「木のカレンダー」



れば「木づかい」は広がっていくと考え、事業展開をはじめました。

発想力で林業の活性化を

デザイナーとのコラボレーションを盛んに行っているハートツリーでは、吉野材を使ったデザインコンペの開催協力を行うほか、9月には汐留イノベーションスタジアムと共に PaPaCo YOSHINO という吉野材やヒノキの端材・間伐材を使っておもちゃをつくるプロジェクトを開始しました。また、被災地復興と森林再生をコンセプトに、宮城県の登米町森林組合との協力のもと宮城県産間伐材を使用した「木のうちわ」を5月に発売。同うちわは、この夏、林野庁が農林水産省職員に購入・活用を呼びかけた「木づかいで応援しよう！」

受賞者の声

木づかい運動推進部門
株式会社 南都銀行

吉野材を使用した
南都銀行堺支店の内装



当行は「木づかい運動」への関心を高め、奈良県林業の活性化につなげるため、店頭やイベントにおける吉野産割り箸の配付や間伐材を活用した「吉野3.9ペーパー」の利用のほか、店舗内装への吉野材の活用をしております。受賞を機に、一層「木づかい」の重要性の周知に努めてまいります。

『木のうちわ大作戦』にも採用されています。9月には宮城県の栗駒高原森林組合との協力により「木のカレンダー」の販売も開始しています。

発想力のあるデザイナーなど、様々な分野と連携しながら、これからも国産材を使った商品を企画し木の良さを伝えていくことで、林業の活性化に貢献できればと考えています。

服部さんは、10月17日から始まる「木づかいWeek 2011」(NPO法人活木活木森ネットワーク、港区立エコプラザ主催)で、木づかいビジネスセミナーの講師を務めます。また、国産材を利用したビジネス参入を考える企業へのアドバイザリーとなる「木づかいビジネス協議会」の設立も予定しています。

「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」 東京都港区

ホームページ：<http://www.uni4m.or.jp>

港区の国産材利用推進事業

東京都港区は、今年10月、区内の建築物等に国産材利用を促進するため、使用量に応じた二酸化炭素固定量を区が認定する「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」を始めました。これは床面積5千㎡以上の建築物を建てる建築主に、一定以上の協定自治体の木材使用を義務づけるものです。

森のEBCが広がる

今回の制度をはじめのきっかけとなったのは、港区が平成19年に東京



1. お話をしてくださった港区環境課の早藤 潔さん
2. 「みなと区民の森」に設営した作業道
3. みなとモデル二酸化炭素固定認証制度設計委員会の様子
4. 「区民の森」の間伐材が使われた港区立エコープラザの内装

都あきる野市の市有林約20haを借り上げ、東京都森林組合の協力を得ながら路網整備や間伐に取り組んだ「みなと区民の森づくり」でした。港区からバスで1時間半ほどの場所にあるため、森を持たない港区に住む子供たちの環境学習の場として、また週末には一般公募で集まったたくさんの方の親子連れで賑わう森となりました。

平成20年には「みなと区民の森」から搬出された間伐材を区の施設「エコープラザ」の内装に使用したことを機に、港区と交流のあった全国の山



2



3



4

間自治体と共に地球温暖化防止および森林再生を目的に木材利用を進めていくための「みなと森と水サミット」を展開。そこでの議論に加え、「木材の二酸化炭素固定認証制度設計のための委員会」も設置して、検討を重ね今回の制度をスタートさせる運びとなりました。

持続可能な社会の実現のために

現在港区と協定を結んでいる自治体は32、制度に参加する木材加工の登録事業者は100を超えています（9月現在）。協定を結ぶにあたっての山間部の自治体の義務は、港区への木材供給と伐採後の植林のみですが、今回の取組をビジネスモデルに、山間部の自治体が競争力を持ち、国産材の需要拡大につながることを目指します。持続可能な社会の実現を目的としたこの制度が全国に波及していくことを期待しています。

10月17日、エコープラザで行われる「木づかいWeek 2011」のオープニングでは、皆川林野庁長官と武井港区長の対談があります。

平成23年度木づかい運動感謝状贈呈対象者取組概要

農林水産大臣感謝状

○大規模国産材供給・利用部門	
西北プライウッド株式会社(宮城県)	・地域材を利用した合板、LVLの生産
○国産材利用推進部門	
一般社団法人工務店サポートセンター(東京都)	・構造材、羽柄材全てに国産材を利用する先導的な長期優良住宅を開発・普及
株式会社イトーキ(東京都)	・都市木造向け内装材、高性能木材の開発
○木づかい運動推進部門	
株式会社南都銀行(奈良県)	・吉野ヒノキ製「広告入りアド箸」等で「木づかい」をPR
株式会社木遊舎(愛媛県)	・国産建築用規格製材を利用した遊具の開発・製作販売

林野庁長官感謝状

○国産材利用推進部門	
株式会社シェルター(山形県)	・接合金物工法による大型木造建築物の開発・普及
親和木材工業株式会社(岐阜県)	・杉間伐材による中空木材(コラムウッド)の製造・販売
○木づかい運動推進部門	
特定非営利活動法人木材・合板博物館(東京都)	・木づかい、木育イベントとして木工教室、工場見学ツアー等を実施
ハートツリー株式会社(東京都)	・東北林業復興支援プロジェクト等の実施

(財)日本木材総合情報センター理事長感謝状

○国産材利用推進部門	
株式会社オリバー(愛知県)	・FSC認証の国産材家具の製造・販売
○木づかい運動推進部門	
ストローファーム(高知県)	・国産材を利用した玩具を製造販売
東洋大学木と建築で創造する共生社会研究センター(埼玉県)	・木の学校づくりシンポジウム、木の学校づくりネットワーク通信、学校木質化講座への協力等
穂の国の森から始まる家づくりの会(愛知県)	・愛知認証材を使った家づくり等の推奨

作り手と使い手を結ぶ「木づかい」異業種交流セミナー

木づかい Week 2011

平成23年10月17日(月)~22日(土)

木づかい Week 2011 は、セミナーや商品展示、異業種間の交流を通じて木づかいビジネスのネットワークを育てるためのイベントです。



昨年開催された「木づかい祭りだ！全員集合！」の様子

①木づかいシンポジウム

- 【第一部】 木づかい運動感謝状贈呈式
東日本大震災の復興に向けた木づかいを考える
- 【第二部】 異業種で木づかいと環境貢献を語る
- 【日時】 10月18日(火) 13時~
- 【場所】 東京大学弥生講堂

②木づかい Week イベント

- 10月17日(月) オープニングセレモニー「みなとモデルと木づかい」
【対談】皆川芳嗣(林野庁長官)&武井雅昭(港区長)
- 10月19日(水)~21日(金) 木づかいビジネスセミナー
- 10月17日(月)~22日(土) 木づかい見本市
- 【場所】 港区立エコプラザ

問合せ：NPO 法人活木活木森ネットワーク

TEL.03-5844-6272 E-mail : mail@iki-mori.net